拝見 導入効果

朝日オフセット印刷（神奈川県横浜市）

標準化と生産性向上に成功

エスケー液製造「デジニップ」を採用

社員のモチベーションにも効果

朝日オフセット印刷株式会社（廣田愛子社長、神奈川県横浜市）は今年1月、エスケー液製造株式会社の販売する「デジニップ」を採用。インキローラーと給水ローラーなどのニップ幅を数値管理することで、印刷物の標準化や生産性向上を実現した。

朝日オフセット印刷の創業は昭和21年。オフセット輪転機を県内で最も早く導入するなど、時代の流れを的確に捉えた展開で地域社会に貢献している。

現在では、企画・デザインから印刷、製本まで一貫生産体制を構築。パンフレット、カタログ、チラシ、DM等、多様化するニーズに迅速に応えている。生産設備は、AB判8色オフセット輪転機2台、A倍判4色オフセット印刷機1台、菊全判4色オフセット印刷機1台、B半判4色オフセット印刷機1台、A全判2色オフセット印刷機1台、菊全判4色兼用両面オフセット印刷機1台のほか、各種製本・加工機を有する。

森田工場長

◆誰でも簡単に

朝日オフセット印刷がエスケー液製造からデジニップを紹介されたのは昨年末のこと。

「一週間のテスト期間で各印刷機のオペレーターが頻繁に持ち出し、常にどこかの印刷機で活用していた。過去、作業が楽になると聞いて試した今年の初めだが、この試用期間でデジニップは必要不可欠なツールとなった。

◆数値管理を実現

「現状、一週間に1回はどこかの印刷機で活用している」（森田工場長）と話すデジニップを活用する以前は、インキローラーにホワイトなどを巻きつけた状態で紙に転写し、ニップ幅を確認していたが、作業が面倒で時間がかかると敬遠し、何かが起こらない限り調整をしていなかった。

また、「私の時代には、ローラー交換に限らず、極端な話、水の上がり加減なども目視で判断していた。不思議に勘でできてしまう部分があり、それを現在のオペレーターに説明して通じるものではない」と技術面での課題を明かす。

しかし、デジニップの採用で楽に調整ができるようになったことで、オペレーターの姿勢に変化が生じたという。

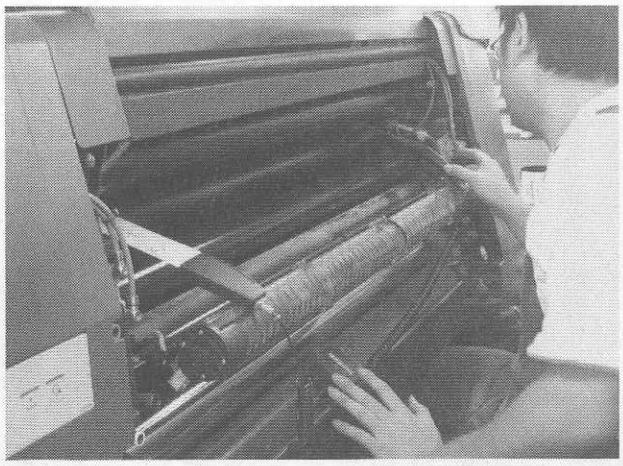
「デジニップのおかげで、簡単にローラー調整ができるという意識がオペレーターに芽生えたことが一番の収穫。今までだと半日かかるため先延ばしにしていた調整をこまめに行うようになった。ローラー調整にかかる時間も3分の1程度。さらに、経験に基づく手法で許容範囲に入っている調整と正確に数値で決められた調整はまったくの別物であり、印刷機の標準化が可能になった」と森田工場長は変化を説明する。

同社では、若手オペレーターにも数値を指示することでローラー調整作業を任せているほどで、いかに目に見える数値が効果的であるかが瞭然である。

このように、多くのメリットを享受するデジニップは、ローラーのニップ幅を0・1㎜単位で表示する画期的な製品。左右2つに分かれたセンサーでローラーの平衡が容易に取れ、ローラーに挟んだままでニップ圧の微調整ができる。

また、ベアリング等の清掃作業も含め、作業時間を約半分に短縮。すべての印刷機を標準化・統一化することで、継続的に安定した印刷を実現した。

ドイツ印刷関連団体認証機関であるFOGRAによる検証を受け実証されるなど、大きな注目を集めている。



デジニップでニップ幅を調整

◆社員育成に貢献

若手がスキルを向上させるには、機長とサブという役割をいかに改善するかが課題となっている。「若手を伸ばす要因の一つに、自分が補佐であるか機械に手をだせるかがある。もちろん、入社間もないオペレーターが可能な範囲は少ないが、デジニップの使用に関しては経験の差はないため、若手にもニップ幅を測定させている。そこで、自分なりに機械を調整しているという前向きな気持ちをもたせるようにしている」と森田工場長は次世代を担うオペレーターの育成にも気を配っている。

デジニップを活用し、品質の安定と同時に社員の士気の高まりという大きな成果を得た朝日オフセット印刷。経験に頼るという状況から脱却し、数値管理へと踏み出した同社の活躍に期待が高まる。

始した。また、菊半裁向け商品『FACILIS Ver4・6 Supremo 4UP（フォーアップ）』、菊四裁／

「FACIL

された新製品や新技術を国内で紹介する。

今回の「アフタードルッパ展」には、菊全判寸延び高速オフ5色「RYOBI 75 6」、環境に優しい次世代のLED—UV印刷システム搭載のB2判高速オフ6色印刷機「RYOBI 925」、菊四裁寸延びオフ4色印刷機「RYOBI 524」の他A全判高速オフ5色印刷機「RYOBI

1日(日)、午前9時～午後5時まで

◆会場　リョービ広島東工場（広島県府中市鵜飼町800—2）

—5　RYOBI 1050